

業界唯一の統計士

トレンド^秘解説

#19



吉元 一夢 よしもと・ひとむ

株式会社THINX 代表取締役。データアナリスト・統計士・BIコンサルタント・BIエンジニア。文部科学省認定統計士過程修了。現在は、IT企業のシステム開発やソフトウェア開発にアドバイザーとして従事しながら、パチンコホール・戦略系コンサルタントとして活動。



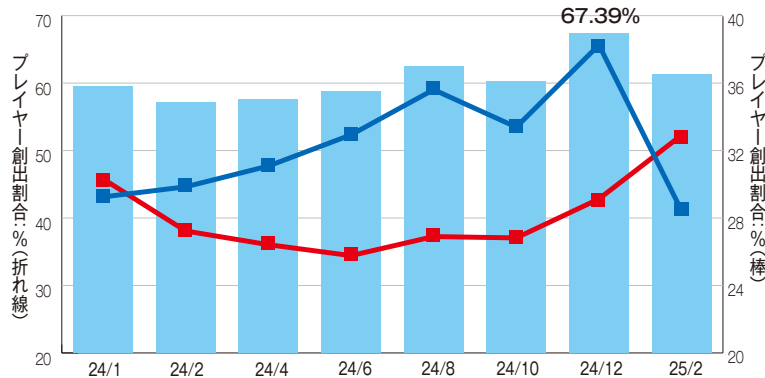
THINX公式LINE

文部科学省 文部科学省認定統計士
221010061

パチンコの未来を問う

～高性能は正義か？ 射幸性がホールとプレイヤーを分断する～

図1 プレイヤー創出割合



本分析は、4円パチンコ遊技者全体を100%とした際における、ミドルタイプに属するクラスター（以下、ミドルCL）の市場構成比を棒グラフにて示したものである。加えて、折れ線グラフでは、ミドルCL内部を「高速機種群」と「非高速機種群」に分類し、2024年1月以降の時系列データに基づき可視化している。これにより、ミドルCLの構成比率の変動に加え、その内部構造におけるスペック特性の違いが市場に及ぼす影響を俯瞰的に把握することが可能である。

ここでいう「高速機種群」とは、いわゆる時速4万個を超える出玉性能を有する機種群を指し、近年の高射幸性ニーズに応えるスペック設計を特徴とする。一方で、「非高速機種群」はこれに該当しない従来型ミドルスペック機を包含する。

なお、LT（ラッキートリガー）搭載機種の扱いは、LT199をミドルCLの一部としてプロット対象に含めているが、LT99およびミドル海については本分析の対象外とした。これは、設計思想およびプレイヤー体験の質的差異を鑑み、ミドル帯における構造比較の整合性を確保するための措置である。

全体傾向として、昨年夏頃よりミドルCLは4円パチンコ市場全体の60%を超える水準に拡大し、ピーク時には67.39%にまで達した。2025年に入ってから以降も、この傾向は継続しており、ミドルCLの市場支配的な位置づけは依然として変わらない。これはすなわち、現在の4円パチンコ市場が、高い射幸性を核とした構造に大きく偏っていることを如実に物語っている。

注目すべきは、ミドルCL内部における構成変化である。直近のデータにおいて、「高速機種群」に分類される機

種のプレイヤー創出割合が顕著に増加している一方、「非高速機種群」は縮小傾向を示している。この現象は、高射幸性トレンドが機種選好に与える影響を裏付けるものであり、スペック特性が市場の遊技行動そのものを再構築しつつあることを示唆している。

さらに、昨今業界内外でしばしば言及される「パチンコの遊びづらさ」の背景にも、この構造的変化が密接に関与していると考えられる。高速機種は、その出玉性能の高さゆえに、短時間での勝敗決着が発生しやすく、遊技時間の圧縮と期待値の一極集中をもたらす。結果として、従来のようにじっくりと遊技を楽しむ体験価値が希薄化し、射幸性一辺倒のゲーム性に起因する心理的負荷が、プレイヤーにとって「遊びづらさ」として認識されている可能性が高い。

パチンコ市場の持続的再生には、「期待値と遊技体験の均衡を取り戻す機種設計」および「射幸性以外の価値軸を再提示する戦略」が不可欠である。単なる高性能スペックの投入に依存するのではなく、プレイヤーの心理的満足度や多様な遊技スタイルに対応した設計思想の再構築こそが、今後の回復の鍵を握ると結論づけられる。

さらに、昨今業界内外でしばしば言及される「パチンコの遊びづらさ」の背景にも、この構造的変化が密接に関与していると考えられる。高速機種は、その出玉性能の高さゆえに、短時間での勝敗決着が発生しやすく、遊技時間の圧縮と期待値の一極集中をもたらす。結果として、従来のようにじっくりと遊技を楽しむ体験価値が希薄化し、射幸性一辺倒のゲーム性に起因する心理的負荷が、プレイヤーにとって「遊びづらさ」として認識されている可能性が高い。

©THINX-LAB.OLAP SIS ©SUNTA(CTRYSEM)よりデータ引用